

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホームあかね やすらぎ館		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1-7		
自己評価作成日	平成26年10月16日	評価結果市町村受理日	平成26年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活を安全に気持ちよく暮らす為の規制はあるも、入居者は個々のペースで生活している。日々に行われるレクやアクティビティは入居者の生活にメリハリをもたらし、毎月組まれる行事は入居者の楽しみ事となっている。また地域との繋がりが大切にし、近隣の児童会館との交流、町内会の方々による健康体操も恒例となっている。毎月実施される慰問ボランティアによる歌・演奏、読み聞かせを楽しみにされる様子があり、ボランティアの方々とのコミュニケーションが深まっている。健康面においても、かかり付け医院の月2回の往診、毎週の訪問看護師、必要時の歯科、皮膚科の往診があり、細やかな健康管理がされている。スタッフは「その人らしさ」の尊厳を守る意識を持ち、日々の暮らしを明るくゆったりと支えている。

＜楽しみごとへの支援＞

張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら食事の準備や盛り付け、後片付けなどの役割、歌や演奏、健康体操のボランティアの受け入れや近隣の児童会館の子供たちとの交流、ホーム内での歩行訓練等で身体機能を高める取り組みなど楽しみごとや気分転換への支援をしている。

＜急変や事故発生時の備え＞

利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は消防署主催の救急救命講習を受講したり、事業所内で定期的に講習会を開催している。また、AEDを設置して使用方法の講習会開催や地域の人達もAEDが利用できるように呼びかけたり、緊急対応フロー図も訓練の教訓を活かしながら毎年見直しを実施している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員の目に付くところに掲示している。その理念を共有して業務に携わるようにしている。	事業所独自の理念をつくりあげ、見やすい場所に掲示し、カンファレンスやミーティング時に話し合い、理念を共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りに誘っていただき、子供みこしではホーム前で停まる配慮もいただいている。避難訓練や運営推進会議には地域の方にも参加していただいている。地域の方による健康体操や児童会館からの来訪も継続しており、良い関係が築けている。	毎年、継続して近隣の児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加、読み聞かせや演奏等のボランティアの受け入れやまちづくりセンターとの協力関係を築きながら地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のボランティア慰問レクのポスターを掲示し、地域の方の参加を募っている。運営推進会議に於いても、介護に関わる多様な情報を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その月のテーマごとに自由に意見を出していただき、サービスの向上に活かしている。また福祉関係や防災関係の情報交換を行っている。	運営推進会議を年6回を目安にを開催し、地域との交流や防災等、具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、児童会館長には運営推進会議に参加いただき、まちづくりセンター所長には運営推進会議議事録やホームの活動を報告し、実情を知っていただいている。	市担当者や包括支援センター、児童会館長やまちづくりセンター長と事業所の取り組みや情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を全職員が周知できている。敏感に対応している。見守りを強化し、センサーマットやセンサー機器を使用し拘束のないケアを心掛けている。入居者個々に合った尊厳あるケアが自然にできている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修や尊厳について職員間で共有し、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、常時確認できる状態にしている。また、虐待防止研修に参加し知識を深める機会をスタッフに提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を必要とする入居者が居ない為、制度の内容については今一度学習会を開いたり資料を配布して理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って十分な説明を行い、納得しご理解いただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設けたり、入居者や家族が気兼ねなく意見を表出できるような環境作りをしている。要望はできる限り希望に添えるよう努めている。	家族や来訪者等が苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。また、「あかね便り」を定期的に発行して、日常生活の様子や健康状態など定期的に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りなどで職員の意見や提案を聞き入れ、活発な意見交換をし、運営に反映させている。連絡ノートなどのツールも使い意見や提案を出し合っている。	連絡ノートの活用やカンファレンス、申し送り等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員がやりがいや向上心を持って働けるように、個々の評価により賞与に反映させる制度をとっている。チームはお互いの仕事を尊重しつつ、より良いケアをする為の意見を言える環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報の提供など、スキルアップできる機会を提供している。チーム内でお互いのケアの質を高めるための声掛け、意見交換ができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や連絡会参加の機会に同業者の繋がりが出来るよう心掛けている。交流し情報交換することでサービスの質向上に活かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを積極的に傾聴し、受容することで信頼関係の構築に努めている。初期においてはケアプランも一か月毎の見直しをし、丁寧なモニタリングに努め、ご家族へお知らせしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、できる限り希望に添えるよう工夫するよう努めている。家族へ細やかな情報を提供すると共に、不安な心情の軽減になるような説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、必要としている支援を見極めるように努めている。各種の介護サービスを含めた社会資源の情報提供を行い、在宅生活の継続も視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、お互い助け合う関係が保てるように努めている。共に喜び、悲しみや怒りは本人の気持ちになって聴くという姿勢を忘れず、関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを汲みつつも、家族の力が尚も必要な時は、本人への言葉かけ等の支援をお願いしている。ホームと家族が共に本人を支える関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい雰囲気作りに努め、ゆっくりして頂けるような対応を心掛けている。	児童会館の子供たちとの相互訪問や地域の人達に参加を呼びかける健康体操教室の開催、散歩や買い物、地域のお祭りなどの行事参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。又、難聴で会話に入っていけない等で孤立してしまいがちな利用者には職員がフォローし、良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの為、契約が終了した方の家族から相談があればその都度応じており、本人との関係継続にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心の内を話しやすい雰囲気作りを心掛け、本人の希望や意向などが常に把握できているよう努めている。言語でのコミュニケーションが困難な場合には、表情やしぐさ・行動などを通して本人本位に検討している。	本人・家族の意向や要望等をセンター方式を活用して把握し、本人本位に検討している。また、情報を職員間で共有して、サービスに活かせるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず担当ケアマネ等からの情報とご家族や知人からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握ができているよう努めている。センター方式を使って情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時のバイタルチェックや会話の中からその日の心身状態を把握している。担当者のきめ細かいモニタリングを全職員が周知するよう心掛けている。また、有する力を把握し、個々にあった役割を担ってもらえるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で介護計画に関しての話し合いの場を設けており、お互いの意見・情報・アイデア等を出し合い、本人や家族からの要望や意見も確認して介護計画を作成している。	本人、家族の意見や要望、主治医や看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と業務日誌から、全職員が情報を共有できるようになっている。連絡ノート等のツールも利用し、情報を共有し実践している事が、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に出来るだけ応じるよう努めている。又、連携している病院以外への受診も、ご家族やご本人の状況に応じて管理者が通院介助を行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には救命救急講習・避難訓練で協力を頂いている。地域のボランティアさんや児童会館には、利用者の生活の質向上の為に協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に管理者から本人及び家族にお話し、納得の上で連携している医師がかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療が受けられている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、医師の往診や看護師との連携、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が訪問して健康管理や利用者の相談に込えている。また、職員は利用者の変化を見落とさずに看護師に伝えるようにしている。看護師より職員に適切な指示やアドバイスがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合でも病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、管理者や職員は頻繁に家族から情報を頂き、状態をその都度かかりつけ医に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会ある毎にご本人やご家族からの意向を伺ったりお話する機会を設けている。延命処置、AED使用、終末期の希望等のアンケートに答えていただき、現状の思いを確認している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いや看取りのアンケート調査を実施し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急講習を受けたり、事業所として定期的に講習会を開くなど、実践力を身に付けられるよう努めている。又、AEDを設置。講習も受け、地域に貢献する意識を持っている。緊急対応フローも毎年見直し、改善を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防による避難訓練は、昼間想定と夜間想定で実施している。設備の定期点検も実施。23年にはスプリンクラーも設置している。本年6月には、地震を想定した防災訓練を実施。地域の方には見守り役の協力をいただいている。	昼・夜を想定した年2回の火災避難訓練や救急救命訓練の実施、火災自動通報が町内会役員に届くよう設定されている。また、スプリンクラーや報知器等の設備が完備し、定期点検も実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。いつも「自分の親なら…」の視点を忘れないようにしている。	毎月、マナー目標を掲げて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるよう努めている。又、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら支援している。自己表出の難しい方の理解に努め、決定を引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重している。食事時間や形態などは本人の希望や体調を優先させている。総じて笑顔を引き出す支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方に任意している。難しい方は、その人らしいおしゃれが出来るよう支援を行っている。毎月の理美容の訪問は入居者の楽しみにもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材や禁食の食材には、他のメニューに変える等して対応。下ごしらえ・盛り付け・片付けは本人の有する力に合わせて職員と共に行っている。日曜メニューでは普段と違うメニューや利用者の希望に応える等の工夫をしている。	戸外でのバーベキューや出前など食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理や下ごしらえ、盛り付けや後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、個々の不足の状態を把握している。食事量の不足や栄養バランスが悪い時には、経腸栄養剤を利用したり、摂取し易い形態にするなどして栄養バランスや脱水の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて、介助・見守り・声かけにて支援している。口腔ケアの必要性を理解をいただき、食後には必ずお茶を提供することで、口腔内の保清に配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように排泄パターンの把握に努め、時間を見て声かけ誘導し、トイレでの排泄を促している。個々の状態に合わせパットの現状や交換の時間を判断している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけ、誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで身体を動かす機会を提供し、水分摂取量も考慮しながら便秘予防に努めている。便秘症の方は乳製品を摂って頂くなどして、自然排便出よう取り組んでいる。個々の状況によっては医師の指示を仰ぎ服薬の支援も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が入りたい時に入浴して頂いている。拒否が見られる場合には無理強いせず、気持ちに向くような声かけ・対応にて入浴を楽ししい時間に思えるよう工夫している。体調に合わせてシャワー浴にしたりと個々の体調に配慮している。	本人の希望や意向に沿って、曜日や時間等柔軟に入浴支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファやベンチを置いて、好きな時に好きな場所でのんびり寛げる様に工夫している。又、夜間、眠りにつけない方には職員の関わりにて、落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを記録ファイルに閉じており、薬の変更や臨時薬がある場合には業務日誌に記録し口頭でも伝え、全職員が把握出来るようにしている。服薬ミスを無くす為の工夫やマニュアルを作り服薬ミス0を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を、無理のないように願っている。毎月の余興ボランティアの慰問や、日常的にもカラオケや風船バレー、歌体操、カルタ等で張り合いや楽しみのある日々が送れ、気分転換が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って、職員と一緒に散歩や外気浴、買物に出かけられるよう支援している。外出レクも行っており、屋内だけではなく屋外での楽しみの機会も提供しているが回数的には少ない。家族や地域資源の利用が必要。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴等で戸外に出かけられるよう支援している。また、地域のお祭り等の行事参加や児童会館の子どもたちとの相互訪問、野外でのバーベキューや外食等で普段では行けないような場所へも出かけられるように支援している。	今後は、外出の年間計画を立てて家族や地域の人達の協力を得ながらご本人の希望をかなえていくことを検討しているので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が管理して小額ずつお渡ししている。支払い時にはその方の力に応じて手助けしている。職員と一緒に買物に行き、社会性を失わないよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るように支援している。手紙でのやり取りは殆どない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には写真や絵を貼ったり、季節を感じられる飾り付けをする等、明るく心地良い環境作りを工夫している。照明を微調整したり、温度や湿度にも気配りしている。騒音や不快な音で利用者を驚かさないう配慮し、浴室やトイレも常に清潔を心掛け、気持ち良く使用できるようにしている。	共用空間には、児童館の子供たちが毎月掲示を変えてくれるカレンダーや行事参加の写真等の掲示、季節毎の飾りつけで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外の場所でも一人の時間を持ったり、気の合う同士で談話できるように、ソファやベンチを置いて寛げる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、慣れ親しんだ馴染みの物を持って来て頂けるように家族にお願いしている。入居後も、手作りの小物など本人の気に入った物を自由に飾って頂き、心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室には、使い慣れた家具や寝具、家電製品等が持ち込まれたり、手作りの小物などが飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアには個々の表札を貼り、トイレにも分かり易い表示がある。共用部や居室共に、動きやすい家具配置や動線と手すり、自由かつ安全に歩行できるようになっている。		

目標達成計画

作成日：平成 26年 11月 14日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	3分の1弱のご家族と、月1回のお便りが関わりの中心となっている。ケアプランの説明を含め近況を電話連絡する等の機会を増やし、連携を図る必要がある。	ホームや利用者の現状に興味を持って頂く工夫をし、ご家族とホームが共に利用者を支える関係を作る。	管理者が節目毎にご家族へ情報を提供し、職員の力の及ばない、家族ならではの支援をお願いする。個々に付いているモニタリング担当者は「あかね便り」の担当コーナーを利用し、利用者の日常を生き活きと伝えることで親近感を持てただけよう努める。	1年
2	49	ニーズやADLの違いにより、外出レクの内容が限られている。ご家族も年を重ね、本人の希望する外出支援の実行が難しい。	利用者のニーズに沿った外出が安全に行えるようにする。家族が協力しやすい状況を作り、地域の資源も活用する。	競馬場、野球場、動物園等多岐に渡る利用者の希望を個別に叶える為、年間の中で計画を立てる。家族や地域の方々と連絡を取り、利用者・家族・職員が共に楽しむ機会とする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホームあかね くつろぎ館		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1番7		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お向かいにある「東札幌児童会館」の学童が定期的に来訪し、子供の声が聞こえるホームです。

住み慣れた地域の中で暮らしていることが感じられるよう、散歩やレクリエーションなど外へ出る機会をできるだけ持つようしています。

家庭的な雰囲気の中で、入居された方がそれぞれ役割を持って、お互い「認め合い」「助け合い」「支え合う」、馴染みの関係が築けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも「理念」を確認できるよう、職員がいつも目にする場所に掲示してある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に運営推進会議に参加いただいている。児童会館との交流。近隣に散歩に出かけたり、通りから見える場所でバーベキューをするなど、地域に見える活動をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方も参加できるようレクの案内を玄関に掲示。急な見学にも可能な限り対応したり気楽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。「さっぽろ救急サポーター事業」に登録している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退去情報や職員の変更、事業活動の報告などを行っている。また、テーマごとに屈託ない意見を自由に出していただき、サービスの向上に反映している。地域の話、福祉関係の情報交換も行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、地域包括支援センターとの情報交換を行っている。見学者に地域包括支援センターを紹介している。生活保護担当主事との情報交換、面談の立会、医療券の請求連絡などしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員皆が意識を共有してケアにあたっている。(スピーチロックなどの目に見えない行動制限について、研修等で周知していきたい。)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待の防止についての意識を共有している。また、「他人(ひと)を傷つけるような言葉づかい」をせぬよう、ケア目標に掲げた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居後、家族や関係者との調整の上、成年後見人が選任されたケースがあったことで、担当者は学ぶ機会が持てたが、チームとして共有はできてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および重要事項の内容については、同意が得られるよう十分に説明したうえで締結している。改定等の際にも文書にして詳しく説明などを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見等を投函しやすい用紙を用意して、玄関付近に「ご意見・苦情箱」を設置している。また、ご家族に対しては、「あかね便り」や電話、来訪の際などに報告や相談を受けるようしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにおいて、職員の意見や提案を聞き、必要な事項については合議で検討している。また、日常的に事務職員や管理者を通し意見や提案がある場合は対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のやる気を引き出すよう、個別に面談するなどして職場環境の向上に努めている。また、有給休暇の取得や昇給などに配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケア水準等について、チェックシートを使い自己評価している。管理者は、そこから課題等把握してOJTしている。資格試験受験料や研修費用を一部会社で負担するなど、職員の資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、系列の事業所間での「管理者会議」を開催、情報交換を行っている。会社内の職員合同での「救命救急研修」を開催。区内の「GH管理者連絡会」にも積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(必要な情報は把握しつつ)お互いの自己紹介からコミュニケーションを図るようして、初対面なのにいろいろ知っているのはなぜ…との過度な不安を感じさせぬようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を含む「家族」を支援することが、本人にとって最良であると考えて、家族等との関係作りに重きを置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントから、暫定ケアプラン(初回ケアプラン)を立案し、同意を得てサービスを開始している。また、入居3ヶ月にて、プランの妥当性を検証している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性が発揮できるような過ごし方を尊重している。「介護」よりも「生活支援」からアプローチすることで、関係を築くようしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解と支え(協力)がなければ、本人の安心はないことを伝え、必要時は協力いただくようしている。一方で、本人の日頃の様子や予想されることについて、密に伝えるようしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れぬよう、家族以外の来訪(面会)であっても、受け入れている。また、本人の口から聞かれる馴染みの人や場所などの話について、繰り返し傾聴するようしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるかぎり仲良く過ごせるよう、利用者間の関係を考慮して食席など配慮している。社交性に乏しい利用者が孤立しないよう、スタッフが介在して他の利用者との関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、必要な相談は受けることを伝えるようしている。また、機会があれば当ホームを紹介したい旨も添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を繰り返し傾聴することから、ここ(ホーム)で暮らすことへの希望や意向をくみ取るようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に収集した情報に加え、「その人らしさ」の背景である生活歴に関する話をくり返し傾聴し、そこからみえてくる「思い」「不安」「意向や希望」を把握するようしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスの場などで把握するようしている。また、定期的に、担当者やケアマネジャーがアセスメントシートにその状態を落とし込んで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からのヒアリング、面会時や電話等で聞き取る家族の意向、主治医との情報・意見交換、担当スタッフの提案などをカンファレンスで確認～検討し、合議にて介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全スタッフが目を通すようしている。業務日誌や引き継ぎ事項は、確認のチェック欄を設け漏れのなきようして、ケアの継続性を担保している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議にて、災害時には地域の高齢者(と家族)を受け入れることを発信した。施設のAEDを地域に活用してもらおうと「さっぽろ救急サポーター事業」に登録した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の医療機関や薬局、地域包括や居宅介護支援との関係を絶たぬようしている。関係のボランティアや児童会館との関わりも、暮らしの幅を広げる一因となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族とホームの協力医(内科)と情報交換を密にしている。必要に応じ、他医療機関や入居前のかかりつけ医療機関の受診も可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは適宜情報交換を行い、アドバイスを受けたり、可能な範囲で処置などをしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、生活の様子の情報の他、かかりつけ医からの「紹介状」や「診療情報提供」を入院先へ提供している。「入院計画書」を入手後は、入院先との情報交換をしながら退院に向けて準備している。再度の通院や入院ができるよう関係作りをしてから退院している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の対応や、看取りに関する方針について、文書を持って十分に説明し、署名・捺印にて同意を得ようとしている。また、重度化が予測される時点で、家族等との相談を開始しようとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内事業所合同で年に1回、「救急救命講習」を行っている。AEDを設置しているも、事故や急変時の対応については、適宜、研修等重ねる必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練のうち、6月には地震想定訓練を行った。9月の大雨により避難勧告が発令された際には、防火管理者より水害の際の具体的な避難方法を指示した。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にする言葉かけや対応については、できている面もあるが、OJTを重ね、さらに改善していきたい課題である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、お風呂に入る気分ではない時に、「ノー」と言える馴染みの関係作りができている。出前寿司や誕生日のケーキなど、入居者が選択できる機会をもうけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場であるも、入居者個人のペースや生活習慣、過ごし方を尊重している。その日の過ごし方について、確認しながらの支援としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度「訪問美容」の利用ができる。整容は、本人の好みも聞きながら必要な配慮をしている。化粧も、本人ができる範囲で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛りつけ、洗い物などそれぞれの能力に応じた食事作りをしている。献立を伝えたり、食材を見せるなど、できあがる食事を楽しむ配慮もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、個人の病歴や希望など加味しつつ、必要量が摂れるよう支援している。水分も無理なく摂取できるよう、チェックシートを使い一日のトータル量がわかるようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔ケア体操と、食後の口腔ケアが、入居者の過ごし方の一つに位置づけられている。入れ歯の洗浄も、日課となっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個別に誘導や促し（声がけ）ができています。日中と夜間帯で、使用するオムツ・パットの種類を変えるたり、可能な限りトイレで排泄するよう援助したりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事を提供し、牛乳や乳酸飲料をすすめたりなどして便秘を予防している。運動の機会も積極的に確保している。便秘症の方には、医師と相談の上、排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	画一的にスケジュール化せず、日々、担当者が声がけして入浴者を決めている。入浴時間の枠内で、おやつ時間を避けたり等個々に合わせた調整をしている。面会があった場合も同様。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ昼寝などを促している。夜も眠たくなってから就寝していただいている。夜間巡視の際も、起こさぬよう配慮して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理が必要な方ばかりなので、職員が薬の情報が確認できるファイルを用意している。適宜、医師や薬剤師と確認して、変化を見逃さぬようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の有する能力に応じた役割を担っていただいている。グループワークなどのアクティビティも盛んである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪の時期を除き、日常的に散歩に出かけている。散歩先で、地域の人とのふれ合いもある。敷地内の畑へ収穫に出たり、外出レクリエーションも実施、季節感を大切にしている。家族と外食されたり、受診の際に食事や買い物をされる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、現金の所持については本人・家族と確認するようしている。現状、お金を自己管理できている方はいないが、必要なもの、欲しいものの購入については、買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(直近で、該当のケースはないが)希望時は、家族のご理解を得ながらできるだけ本人の希望に沿った支援をするようしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時間は、テレビや音楽は消して、食事や会話を楽しめるようしている。洗面台のレイアウトも混乱しないよう見直した。壁には、思い出の写真など掲示している。児童会館の学童手作りのカレンダーが大切な情報源となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル、ソファ、時には玄関ベンチなど寛げる場所がある。会話の場であり、遊びの場であり、作業の場でもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具は、可能な範囲で馴染みのものを持ち込んでいただいている。小物類についても、本人のお気に入りのものや生活習慣として欠かせないものは、備えられるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないよう、靴・洗面道具などの置き場所は変えないようしている。トイレや居室の案内は、大きな文字で見やすくしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあかねくつろぎ館

作成日: 平成 26年 11月 14日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	他人(ひと)を傷つけるような言葉づかい、スピーチロックなどの目に見えない行動制限につながる言葉づかい、利用者の尊厳を大切にすることが、OJTを重ね、さらに改善していきたい。	接遇マナーだけではなく、利用者の尊厳を大切にすることの意味などについて学ぶ機会を設け、職員がプライドを持って働けるようする。	・OJTの推進。 ・職員個々に、自己分析から課題を抽出、目標を設定する。 ・相互にチェックする場を設ける。	1年
2	8	職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度など権利擁護に関する制度について、学び活用する機会が持てていない。	職員が、権利擁護に関する制度について学べるよう支援する。	・内部研修の実施 ・外部研修への参加と、報告の場の設定。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。